

平成 21 年度 決算 に 係 る

定 期 監 査 調 査 書
決 算 審 査 調 査 書

平成 22 年 4 月

農林水産部農林総合研究所
林業試験場

1	前年度指摘事項等に対する措置等	1頁
	(1) 指摘事項	
	(2) 監査意見	
	(3) 決算審査意見	
2	前年度県議会決算審査特別委員会の指摘事項に対する処理状況	1
3	組織及び業務調べ	2
4	職員の定員、現員調べ	2
5	役付職員の調べ	2
6	主な事業に関する調べ	3
7	決算調書（総括表）	7
8	事業別実施状況調べ	8
9	予備費の充用調べ	9
10	繰越関係調べ	9
	(1) 継続費通次繰越調べ	
	(2) 繰越明許費調べ	
	(3) 事故繰越調べ	
11	収入証紙取扱額調べ	10
12	収入事務処理状況調べ	10
	(1) 分担金及び負担金	
	(2) 使用料	
	(3) 手数料	
	(4) 財産収入	
	(5) 寄付金	
	(6) 諸収入	
13	税外収入未済額調べ	12
14	未収金回収促進のための取り組み状況調べ	12
15	税外収入不納欠損額調べ	12
16	債務負担行為の状況調べ	13
17	負担金、補助金、交付金及び委託料支出状況調べ	13
	(1) 負担金	
	(2) 補助金	
	(2-2) 補助金（他課から予算の配当替えを受けて執行したもの）	
	(3) 交付金	
	(4) 委託料	
	(4-2) 委託料（他課から予算の配当替えを受けて執行したもの）	
18	工事請負費調べ	15
18-2	工事請負費調べ（他課から予算の配当替えを受けて執行したもの）	15
19	財産に関する調べ	16
	(1) 公有財産	
	(2) 金券類の受払状況	
	(3) 基金	
	(4) 債権	
20	財産の貸付及び使用許可調べ	20
	(1) 土地及び建物	
	(2) 物品（1品の取得価格が100万円以上のもの）	
21	借受不動産明細調べ	20

22	職員住宅及び職員駐車場の管理状況調べ	2 1
	(1) 職員住宅	
	(2) 職員駐車場	
23	自動車（二輪を除く）の管理状況調べ	2 2
24	寄附物件の受納状況調べ	2 2
25	備品の処分状況調べ	2 2
26	現金、有価証券、物品の亡失、損傷調べ	2 2
...		2 2
27	貸付金等状況調べ	2 2
	(1) 総括表	
	(2) 償還状況	
28	事業別予算執行状況調べ	2 3
29	農業機械の管理状況	2 4
30	生産物（品）に関する調べ	2 4
31	試験研究調査事業別実施状況調べ	2 5
○	意見、要望等	3 1

1 前年度指摘事項等に対する措置等

(1) 指摘事項

指 摘 事 項	措 置 状 況 等
契約の締結時期について 木材利用研究室に関する共同研究契約について、契約締結が大幅に遅延していたので、今後このようなことがないように適正な事務処理を行われたい。	共同研究の相手先と契約内容の調整を早期に行い、試験場と連携を密にし、適期に契約締結を行うように徹底した。

(2) 監査意見 該当なし

(3) 決算審査意見 該当なし

2 前年度県議会決算審査特別委員会の指摘事項（口頭指摘を含む。）に対する処理状況 該当なし

3 組織及び業務調べ

課名	係(担当)名	課の主な所掌事務
農林総合研究所 林業試験場	森林管理研究室	(1) 森林施業及び経営に関すること。 (2) 林業種苗に関すること。 (3) 森林保護に関すること。 (4) 森林土壌に関すること。 (5) 森林気象に関すること。 (6) 林業機械化に関すること。 (7) 林野荒廃防止及び復旧に関すること。 (8) 二十一世紀の森の管理に関すること。 (9) 特用林産物に関すること。 (10) その他林業の改良発達に関すること。
	木材利用研究室	(11) 林産物の加工及び利用に関すること。 (12) その他林業の改良発達に関すること。

4 職員の定員、現員調べ

種別 区分	事務職員		技術職員		現業職員		計		備考
	22.4.1 現在	21.4.1 現在	22.4.1 現在	21.4.1 現在	22.4.1 現在	21.4.1 現在	22.4.1 現在	21.4.1 現在	
定員	0	0	12	12	1	1	13	13	
現員	0	0	12	11	1	1	13	12	
過不足(△)	0	0	0	△1	0	0	0	△1	
臨時職員	0	0	0	0	0	0	0	0	
非常勤職員	2	2	0	0	16	16	18	18	一般事務1名、事務補助1名、林業技術員16名

5 役付職員の調べ

(平成22年4月1日現在)

職名	氏名	在職期間		備考
		年	月	
場長	植田 幸秀	0	0	
森林管理研究室長	西垣 眞太郎	2	0	(通算4年)
木材利用研究室長	西村 臣博	0	0	
特別研究員	有吉 邦夫	2	0	

6 主な事業に関する調べ

事業名	概要
<p>高性能林業機械を活用した低コスト伐出作業方法の確立</p> <p>決算額 648千円 (財源内訳) 一般財源 648千円</p>	<p>ア 目的及び事業の実施状況</p> <p>(ア) 目的 木材生産能率の向上を図るため、プロセッサ(枝除去+丸太加工機能)、ハーベスタ(伐採+枝除去+丸太加工機能)などの多機能で高能率の高性能林業機械の作業性能を調査し、これらの機械に適した機械の配置、作業の進め方を確立する。</p> <p>(イ) 事業の実施状況 県内の伐木搬出作業現場で高性能林業機械を使った造材作業の工期調査を行い、生産性を明らかにした。 また伐木搬出作業の生産コストの算出要件を県内の調査結果と既存文献等から得て、高性能林業機械を含む作業工程のコストを試算した。</p>
<p>○将来ビジョン 3 守る (1)豊かな自然・環境を守り、育て、次代につなげる</p>	<p>イ 平成21年度の事業実施に当たり改善等に取り組んだ点 高性能林業機械の作業中に伐倒丸太の測定等は出来ないため、事前に作業区画の立木の直径、道からの距離等を測定し、幹にマーキングをしておくことで測定時にどんな木を処理しているかがわかるようにした。</p> <p>ウ 成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・造材を行う高性能林業機械(プロセッサ、ハーベスタ)の生産性(11.2m³/時)がわかった。 ・造材を行う高性能林業機械(プロセッサ、ハーベスタ)と他の作業を行う機械が同時に同じ現場で作業すると高性能林業機械が作業停止する待ち時間が17%発生し、11.2m³/時の生産性が実質9.3m³/時に低下した。 ・造材の高性能林業機械を造材以外の作業にかける時間を短くする工夫をすることで生産性が向上する。 ・この調査結果と既存文献から、高性能林業機械を含む作業工程のコストを試算し、現段階での効率的な作業システムをまとめた。 <p>エ 課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査結果や既存文献でまとめた効率的な作業システムが、実際の現場で本当に効率よく作業できるかどうか実証調査が必要である。 ・造材作業以外の生産性については既存文献だけでなく、県内の実態を調査し、より県内の実態にあった効率的な作業システムをまとめる必要がある。

6 主な事業に関する調べ

6 主な事業に関する調べ

事業名	概	要
<p>シヨウロ感染苗木生産技術の開発</p> <p>決算額 791千円 (財源内訳) 一般財源 791千円</p> <p>実施期間 H21～23年度</p> <p>○将来ビジョン 1 ひらく (2)高付加価値で打って出る産業</p>	<p>ア 目的及び事業の実施状況</p> <p>海岸松林に植栽された抵抗性カマツ苗木が活着不良等で枯損する現場が見られる。この一因として、菌根菌とカマツとの共生関係が不完全なのではないかと考えた。</p> <p>そこで、シヨウロ感染苗木の増殖技術を確立し、菌根菌を付加したカマツ苗木の海岸砂地における適応性の強化及び子実体の誘導について検討する。</p> <p>[実施状況]</p> <p>母樹感染法(シヨウロ感染の実生と稚苗を同一の育苗籠で育成し、カマツ稚苗にシヨウロ菌を拡大感染させる)で感染率を向上させるために、次の2実験を行った。</p> <p>1)母樹感染法における種菌投与の効果 2)母樹感染法におけるシヨウロ菌株とカマツ品種の親和性</p> <p>イ 平成21年度実施に当たり改善等に取り組んだ点</p> <p>母樹感染法の予備実験でシヨウロ感染率は30%であった。菌株及び土壌の栄養度により感染率0～70%と変動した。この不安定で低い感染率を事業レベルに向上させるため、シヨウロ菌糸培養で得られた種菌の土壌投与を試みた。</p> <p>ウ 成果</p> <p>1) 種菌投与の効果</p> <p>対照区のカマツ稚苗1本あたりの菌根着生数は55±27個であった。これに対して、種菌2回投与区(7月、9月)は215±105個、種菌3回投与区(7月、8月、9月)は240±131個であり、種菌投与によって菌根着生数に4倍の増加が認められた。</p> <p>2) シヨウロ菌株とカマツ品種の親和性</p> <p>新潟産SadoN7菌株では、カマツ8品種のうち7品種の稚苗が成育する土壌でシヨウロ子実体が15個発生した。</p> <p>しかし、鳥取産RhZ8-1菌株では、8品種のうち1品種だけに子実体が4個発生した。このことが子実体形成において、新潟産SadoN7はカマツ品種に影響されないのに対し、鳥取産RhZ8-1菌株は特定のカマツ品種との親和性が高いことが示唆された。</p> <p>エ 課題</p> <p>今回の実験で得られた菌根及び子実体のDNAを検査し、シヨウロ感染率ならびに遺伝的安定性を調べる必要がある。また、種菌投与を実用的な方法に改善する必要がある。</p>	

事業名	概	要																
<p>県産針葉樹資源による 構造用単板積層材の品 質安定化技術の確立</p> <p>決算額 498千円 (財源内訳) 一般財源 498千円</p> <p>○将来ビジョン 大項目：Ⅲ守る 中項目：(1)豊かな自然・環境を守り、育て、次代につなげる</p>	<p>ア 目的及び事業の実施状況</p> <p>(ア) 目的 県産スギ丸太、なかでもB・C材の付加価値を高め有利販売につなげるため、B・C材の利用が可能な構造用単板積層材(構造用LVL)工場【(株)オロチ：鳥取県日野郡日南町下石見】と共同して、県産スギB・C材を使用した、県産スギ構造用LVLの品質を安定させる技術を確立する。 *B材、C材：曲がりなどにより通常の製材では製品になりにくい材。ほとんどが製紙用チップとして低価格で取引されていた。</p> <p>(イ) 事業の実施状況 県産スギLVLについて、複数ランクの強度性能の製品を、安定的に生産するための手法を構築する。</p> <p>イ 平成21年度の事業実施に当たり改善等に取り組んだ点 昨年度から操業を開始し2年となる。本研究は(株)オロチにおける日常の生産と直結しており、昨年以上に消費者ニーズを意識した、公的認証(JAS)を視野に入れた品質安定化技術の構築に取り組んだ。</p> <p>ウ 成果 昨年度は、強度性能のグレードを1種類(60E)に絞って構造材の製品化に取り組み、JAS認定を実現した。本年度は多様な消費者ニーズに応えるべく、強度性能のグレードを3タイプに増やす(60E、70E、80E 注：数字はたわみにくさを表す。数字が大きいほどたわみにくい。Eはたわみの表記)ことを目標とした。これに対応するため、新たに導入された、スギ単板の超音波伝播時間を測定する装置を使って、単板の強度性能と超音波伝播時間の関係を導き出し、昨年度とは異なる、新しい選別基準を作成した。この基準に基づいて構造用LVLを製造したところ、目標とする性能基準を満たす製品ができた。この基準でJASの申請をおこない、3月1日付けで認可された。今後、品質の安定した多様な製品の提案が可能となる。</p> <div data-bbox="475 1303 911 1626" data-label="Image"> </div> <p>新しい単板選別基準で製造したLVLの実大曲げ試験の様子</p> <div data-bbox="970 1299 1412 1626" data-label="Figure"> <table border="1"> <caption>曲げ性能はJASの基準をクリア</caption> <thead> <tr> <th>グレード</th> <th>平均値 (kN/mm²)</th> <th>最低値 (kN/mm²)</th> <th>サンプル数 (n)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>60E</td> <td>~6.5</td> <td>~6.0</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>70E</td> <td>~7.5</td> <td>~7.0</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>80E</td> <td>~9.0</td> <td>~8.5</td> <td>12</td> </tr> </tbody> </table> </div> <p>工 課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・製品の品質は曲げ強度性能だけではなく、接着や変形など多数の項目があり、対応が必要である。 ・住宅に用いるためには、金物接合やめり込み性能などについて技術データの蓄積が極めて重要になっている(ハウスメーカーからこれらに対する要求が大きくなっている)ことから、次年度での取り組みが必要である。 	グレード	平均値 (kN/mm²)	最低値 (kN/mm²)	サンプル数 (n)	60E	~6.5	~6.0	5	70E	~7.5	~7.0	12	80E	~9.0	~8.5	12	
グレード	平均値 (kN/mm²)	最低値 (kN/mm²)	サンプル数 (n)															
60E	~6.5	~6.0	5															
70E	~7.5	~7.0	12															
80E	~9.0	~8.5	12															

6 主な事業に関する調べ

事業名	概	要						
<p>県産さし木ヒノキ林の木材材質に関する研究</p> <p>決算額 849千円 (財源内訳) 一般財源 849千円</p> <p>○将来ビジョン 大項目：皿守る 中項目：(1)豊かな自然・環境を守り、育て、次代につなげる</p>	<p>ア 目的及び事業の実施状況</p> <p>(ア) 目的 発根性の悪さ、枝性(枝の性質が残っていて横に伸びやすい)等の理由により、これまでさし木による増殖はほとんどされてこなかった。そのような状況の中、智頭町森林組合は30年以上前に先駆的にヒノキサシ木苗で森林造成を行っており、これまでに植栽したヒノキ材が間伐材利用できる林齢となってきたため、材質を把握して有利販売につなげていきたいと考えており、さし木ヒノキの木材材質を調査してほしいという申し入れがあった。</p> <p>本研究では、さし木ヒノキ材と実生ヒノキ材の木材材質を比較検討することにより、さし木により増殖された、さし木ヒノキ材の木材材質を明らかにする。</p> <p>(イ) 事業の実施状況 さし木ヒノキの材質(形、含水率、繊維長、強度など)を明らかにし、木材生産を目的とした、さし木ヒノキの可能性について検証する。</p> <p>イ 平成21年度の事業実施に当たり改善等に取り組んだ点 特になし</p> <p>ウ 成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さし木ヒノキに関する、強度、含水率、密度、形質などの材質データを蓄積する事ができた。 ・例えば強度性能について、これまで一般的であった実生ヒノキと比較しても同等の材質(丸太の動的ヤング係数(たわみにくさの指標。数値が高いほどたわみにくい)は、さし木:10.27 GPa、実生:9.48GPa)である事が明らかとなった。 ・さし木であれば優れた形質を持つ苗木を大量に増殖できる。本結果により、現在造林されているさし木ヒノキは用材としての活用が、また、今後の造林ではさし木苗の導入が提案できる。現在も継続して調査をおこなっているところである。 <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-start;"> <div data-bbox="470 1321 933 1668" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="1029 1332 1500 1668" data-label="Figure"> <table border="1"> <caption>ヒノキ丸太(1番五)の強度性能</caption> <thead> <tr> <th>種類</th> <th>動的ヤング係数 (GPa)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>さし木</td> <td>10.27</td> </tr> <tr> <td>実生(自然)</td> <td>9.48</td> </tr> </tbody> </table> </div> </div> <p>智頭町内でのヒノキ林調査の様子</p> <p>ヒノキ丸太(1番五)の強度性能 (強度性能は実生と遜色なし)</p> <p>エ 課題 現在、智頭町に植えられているさし木ヒノキ(30年生程度)の有益な材質データとなる。今後の地域資源への活用方策について、森林組合とも検討していきたい。</p>	種類	動的ヤング係数 (GPa)	さし木	10.27	実生(自然)	9.48	
種類	動的ヤング係数 (GPa)							
さし木	10.27							
実生(自然)	9.48							

7 歳出調書 (総括表) (一般会計)

平成22年1月31日現在 (単位: 円)

区分	科目	予算			算現額			翌年度繰越額 C	差引増減額 A-B-C	備考
		当初予算額	補正予算額	繰越事業費繰越額	予備費支出及び流用増減	計 A	支出済額 B			
歳出	農業総務費	7,833,000	13,345,000			21,178,000	17,209,614	3,968,386		
	農業改良普及費	61,362,000	0			61,362,000	9,006,451	52,355,549		
	農業試験場費	72,722,000	85,696,000			158,418,000	25,071,647	133,346,353		
	園芸試験場費	167,225,000	17,597,000			184,822,000	61,207,612	123,614,388		
	畜産試験場費	119,999,000	14,225,000	0		134,224,000	75,759,556	58,464,444		
	中小家畜試験場費	68,382,000	0			68,382,000	37,960,485	30,421,515		
	林業振興費	9,316,000	0			9,316,000	1,332,090	7,983,910		
	林業試験場費	58,091,000	50,498,000			108,589,000	44,460,209	64,128,791		
	合計	564,930,000	181,361,000			746,291,000	272,007,664	474,283,336		
			0				13,740	▲ 13,740		
同 上	農林水産業使用料	0					872,565	▲ 872,565		
	行政財産使用料	0					102,720	3,003,280		
	農林水産業手数料	3,106,000				3,106,000				
	農林水産業費国庫補助金	22,147,000	112,312,000			134,459,000	11,520,000	122,939,000		
	農林水産業費委託金	1,049,000				1,049,000	1,957,000	▲ 908,000		
	財産貸付収入	277,000				277,000	22,158	▲ 254,842		
	生産物売払収入	44,142,000				44,142,000	45,205,629	▲ 1,063,000		
	家畜類売払収入	42,441,000				42,441,000	46,910,099	▲ 4,469,099		
	地域活性化・生活料茶園財交付金基金繰入金		28,531,000			28,531,000		28,531,000		
	農薬等検定受託事業収入	15,170,000				15,170,000	4,510,000	10,660,000		
財 源 内 訳	農林水産研究高度化事業受託収入	7,122,000				7,122,000	10,278,000	▲ 3,156,000		
	プロジェクト研究受託事業収入	1,000,000				1,000,000	1,000,000	0		
	肥育技術実証試験受託事業収入	544,000				544,000	544,000	0		
	森林総合研究所受託事業収入		1,500,000			1,500,000	1,500,000	0		
	農産・食品産業技術総合開発機構受託事業収入		1,755,000			1,755,000		1,755,000		
	国立大学法人鳥取大学受託事業収入		2,950,000			2,950,000		2,950,000		
	関西地区林業協議会受託事業収入		2,040,000			2,040,000	2,040,000	0		
	雑入	708,000				708,000	600,853	107,147		
	小 計	137,706,000	149,088,000			286,794,000	127,076,764	159,717,236		
	一般原費充当	427,224,000	32,273,000			459,497,000	144,930,900	314,566,100		
合計	564,930,000	181,361,000			746,291,000	272,007,664	474,283,336			

8 事業別実施状況調べ

(単位:円)

事業名	予算額	支出済額	翌年度繰越額 (繰越申請額)	差引残額	事業の計画と実績・成果
(林業試験場費) 林業試験場管理 運営費	46,457,000	10,023,322		36,433,678	施設の維持管理、非常勤職員の 雇用等、試験場の管理運営を行 った。
林業試験場施設 整備費	21,978,000	2,433,900	18,579,000	965,100	庁舎の修繕、試験研究に必要な 施設・設備の改修を行った。
安全施設導入事 業	24,980,000	24,791,550		188,450	木材乾燥機を更新した。
試験研究費	12,317,000	6,565,246		5,751,754	森林管理及び木材利用に関する 試験研究を行った。
木材品種改良事 業	333,000	44,129		288,871	試験研究結果に基づき、主要造 林樹種の品種改良を行った。
ふれあい集う森 の試験場発見事 業	2,524,000	602,062		1,921,938	広く県民の声を聞くため、公開 講座「森のいろは塾」、試験発表 会「森林・林業・木材フォーラ ム」を実施した。
目 計	108,589,000	44,460,209	18,579,000	45,549,791	
合 計	108,589,000	44,460,209	18,579,000	45,549,791	

9 予備費の充用調べ 該当なし

10 繰越関係調べ

(1) 継続費遞次繰越調べ 該当なし

(2) 繰越明許費調べ

(単位：円)

科目	事業名	金額	翌年度繰越額 (繰越申請額)	左の財源内訳				繰越理由		
				既収入特定財源		未収入特定財源			一般財源	
				〇〇〇〇	〇〇〇〇	国庫支出金	その他			
林業試験場費	林業試験場施設整備費 (ガス庫移設)	3,740,000	3,740,000			3,740,000				
	(ガラス室ボイラー等更新)	15,716,000	14,839,000			14,839,000				現地の調査に不測の日数を要したため 同上
合計		19,456,000	18,579,000			18,579,000				

(3) 事故繰越調べ 該当なし

1 1 収入証紙取扱額調べ

収入科目		目	件数	単価 (円)	証紙はりつけ額 (円)	備考
目	節					
農林水産業手数料	林業手数料	林業試験場手数料	19	4,280	81,320	鳥取県林業試験場手数料等徴収条例
			1	4,160	4,160	"
			59	400	23,600	"
		計(節)	79		109,080	
		目計	79		109,080	
		合計	79		109,080	

1 2 収入事務処理状況調べ
(1) 分担金及び負担金 該当なし

(2) 使用料

収入科目			件数	調定金額	収入済額	不納欠損額	収入未済額	根拠法令名等	備考
目	節	細節							
農林水産業使用料	林業試験場使用料		30	14,080	13,740	0	340	鳥取県林業試験場手数料等徴収条例	納期未到来
			30	14,080	13,740	0	340		
			30	14,080	13,740	0	340		
		計(節)	11	279,500	279,500	0	0	鳥取県行政財産使用料条例	
行政財産使用料	行政財産使用料		11	279,500	279,500	0	0		
			11	279,500	279,500	0	0		
			41	293,580	293,240	0	340		
		目計	11	279,500	279,500	0	0		
		合計	41	293,580	293,240	0	340		

(3) 手数料

(単位：円)

目	収入科 目		件数	調定金額	収入済額	不納欠損額	収入未済額	根拠法令名等	備考
	節	細節							
農林水産業手数料	林業手数料	林業試験場手数料	5	276,000	211,800	0	64,200	鳥取県林業試験場 手数料等徴収条例	誤調定
		計(節)	5	276,000	211,800	0	64,200		
	目計		5	276,000	211,800	0	64,200		
	合計		5	276,000	211,800	0	64,200		

(4) 財産収入 該当なし

(5) 寄付金 該当なし

(6) 諸収入

(単位：円)

目	収入科 目		件数	調定金額	収入済額	不納欠損額	収入未済額	根拠法令名等	備考
	節	細節							
雑入	雑入	工芸実習館消耗品 利用料	2	3,000	3,000	0	0	鳥取県林業試験場木 工教室等事務取扱	
	目計			3,000	3,000	0	0		
	合計			3,000	3,000	0	0		

13 税外収入未済額調べ

(単位：円)

区分	前年度			過年度			現年度分			収入未済額計 A+B	未収理由
	前年度 以前からの繰 越額	左のう ちの収 入済額	不納欠 損額	収入 未済額 A	収入未済額の調定年度内訳 18年度 以前	19年度	20年度	調定額	収入済額		
収入科目											
目	節	細節									
農林水産 業使用料	林業試 験場使 用料						340	0	340		340 納期未到来
		計(節)					340	0	340		
		目計					340	0	340		
農林水産 業手数料	林業手 数料						64,200	0	64,200		64,200 誤調定
		計(節)					64,200	0	64,200		
		目計					64,200	0	64,200		
雑入	雑入										
		目計					0	0	0		
		合計					64,540	0	64,540		65,540

12

14 未収金回収促進のための取り組み状況調べ 該当なし

15 税外収入不納欠損額調べ 該当なし

1.6 債務負担行為の状況調べ

事業名	種別	設定状況		当該事業の 契約額等	執行(支出)状況				備考	
		議決	期間		限度額	債務負担行為の期間				合計 A+B
						20年度までの 執行額	21年度執行 額	22年度以降の 執行予定額		
林業試験場施設 設管理等業務 委託	委託料	H20年12月	H21年度か らH23年度 まで	円 567,000	円 0	円 151,200	円 315,000	円 466,200		
合計				567,000	0	151,200	315,000	466,200		

1.7 負担金、補助金、交付金及び委託料支出状況調べ

(1) 負担金

13

予算科目 (目)	予算額令達額	負担金の名称	支出先	負担率	支出年月日	支出金額	支出の根拠法令等 (規約、要領等を含む)	備考
(林業試験場費) 支出額が10万円 未済のもの						60,000		
目計						60,000		
合計						60,000		

(単位：円)

(2) 補助金 該当なし

(2-2) 補助金 (他課から予算の配当替えを受けて執行したもの) 該当なし

(3) 交付金 該当なし

(4) 委託料

(単位：円)

予算科目 (目)	国 単 の 別	委託料の名称	委託契約の相手方	当		初		契		入札等 年月日 (契約締結 年月)	完了 年月日 履行検査 年月日	支出の状況		備 考	
				予定価格	変更契約	(契約年月日) 契約額	(最終) 契約額	契約 期間	契約形態			支出 区分	支出 年月日		金額
林業試験場費	単県	庁舎警備業務委託	ALSOK山陰(株)	567,000	(H21.4.1) 396,900	(H21.4.1) 396,900	H21.4.1	H21.4.1	H21.3.23 (免除)	H21.4.30外	精算	H21.5.15外	111,825	H21分償券負 担行為年額 151,200円	
林業試験場費	単県	松くい虫防除地上散布作業委託	鳥取県森林組合連合会	235,000	(H21.7.1) 466,200	(H21.7.1) 466,200	H21.4.1	H21.4.1	指	H21.5.1外	精算	H21.7.14	204,750		
林業試験場費	単県	県立「21世紀の森」維持管理作業(第1回)業務委託	長谷育林長谷紀意知	672,000	(H21.7.2) 522,900	(H21.7.2) 522,900	H21.7.2	H21.7.31	H21.7.1 (免除)	H21.7.21	精算	H21.8.14	522,900		
林業試験場費	単県	県立「21世紀の森」維持管理作業(第2回)業務委託	(有)八頭中央森林組合用瀬事業所	341,250	(H21.10.2) 294,000	(H21.10.2) 294,000	H21.10.2	H21.10.30	H21.9.30 (免除)	H21.10.27	精算	H21.11.27	294,000		
林業試験場費	単県	廃棄物(木屑)収集運搬処理業務委託	(財)鳥取市環境事業公社	5,775円/m ²	(H21.4.30) 2,940円/m ²	(H21.4.30) 2,940円/m ²	H21.4.30	H22.3.31	H21.4.22 (免除)	H21.5.21外	精算	H21.7.24外	155,820		
林業試験場費	国費	温室棟熱源改修工事に係る実施設計委託							随	H21.5.21外				東部総合事務 所へ配当換え	
予定価格が20万円未満のもの													389,636		
合計													1,678,931		

(4-2) 委託料 (他課から予算の配当替えを受けて執行したもの)

該当なし

18 工事請負費調べ

(単位：円)

予算科目 (目)	国補 単 果 の 別	工 事 名	当 初 契 約				入札等年月日 (契約保証金 納付等年月日)	請 負 人	支 出 状 況		変 更 (解 除) の 理 由 ・ 内 容	備 考
			(起工年月日) 設計額	(契約年月日) 契約額	工 期	工 期			支 出 区 分	年 月 日		
			変 更 (最 終)			契 約 形 態						
林業試験 場費	国費	林業試験場ガス ボンベ庫設置工 事	(変更年月日) 設計額	(契約年月日) 契約額	工 期							東 部 総 合 事 務 所 へ 配 当 換 え
											0	

18-2 工事請負費調べ (他課から予算の配当替えを受けて執行したもの)

該当なし

19 財産に関する調べ

(1) 公有財産

ア 土地

(平成22年1月31日現在)

行政・普通財産の区分	機関名又は施設名等	所在地	前年度末		本年度異動状況				本年度末		備考
			面積 (㎡)	価額 (円)	異動日	面積 (㎡)	価額 (円)	増減理由	登記年月日	面積 (㎡)	
行政財産	林業試験場敷地	鳥取市河原町稲常113	267,213.24		H			H			
計			267,213.24							267,213.24	
普通財産	-				H			H			
計			0							0	
合計			267,213.24							267,213.24	

イ 建物

(平成22年1月31日現在)

行政・普通財産の区分	機関名又は施設名等	所在地	前年度末		本年度異動状況				本年度末		備考
			面積 (㎡)	価額 (円)	異動日	面積 (㎡)	価額 (円)	増減理由	登記年月日	面積 (㎡)	
行政財産	事務所	鳥取市河原町稲常113	1,174.98	202,704,824	H			H			
	木材加工研究棟	"	936.60	225,223,920	H			H		1,174.98	202,704,824
	昆虫飼育室	"			H			H		936.60	225,223,920
	草庫機械実験室	"	50.00	6,205,000	H			H		50.00	6,205,000
	作業、農機具庫	"	320.80	23,913,000	H			H		196.00	15,886,000
	ガラス室	"	194.4	11,348,000	H			H		320.80	23,913,000
					H			H		194.40	11,348,000

行政・普通財産の区分	機関名又は施設名等	所在地	前年度末		本年度異動状況					本年度末		備考	
			面積 (㎡)	価額 (円)	増減別	異動日	面積 (㎡)	価額 (円)	増減理由	登記年月日	面積 (㎡)		価額 (円)
	温室	鳥取市河原町			増加	H							
	機械室	稲常113	100.30	11,414,000	減少	H					100.30	11,414,000	
	堆肥舎	"	12.00	5,115,000	増加	H					12.00	5,115,000	
	発電気室	"	50.00	3,152,000	減少	H					50.00	3,152,000	
	ポンプ室	"	29.75	7,359,500	増加	H					29.75	7,359,500	
	プロパン庫	"	12.66	1,810,500	減少	H					12.66	1,810,500	
	便所	"	8.88	702,100	増加	H					8.88	702,100	
	廃液保管庫	"	10.21	1,250,000	減少	H					10.21	1,250,000	
	製品保管庫	"	9.8	589,050	増加	H					9.8	589,050	
	木材技術工芸実習館	"	60.00	4,515,000	減少	H					60.00	4,515,000	
	森林学習展示館	"	256.25	30,069,682	増加	H					256.25	30,069,682	
	野鳥等自然観察施設	"	326.00	35,805,226	減少	H					326.00	35,805,226	
	苗木養成等実習室	"	16.81	1,653,000	増加	H					16.81	1,653,000	
			96.99	8,897,000	減少	H					96.99	8,897,000	
計			3,862.43	597,612,802							3,862.43	597,612,802	

行政・普通財産の区分	機関名又は施設名等	所在地	前年度末		本年度異動状況					本年度末		備考	
			面積 (㎡)	価額 (円)	増減別	異動日	面積 (㎡)	価額 (円)	増減理由	登記年月日	面積 (㎡)		価額 (円)
普通財産	—				増加	H			H				
財産計			0	0	減少	H			H			0	0
合計			3,862.43	597,612,802							3,862.43	597,612,802	

- ウ 山林 該当なし
- エ 不動産売却等 該当なし
- オ 財産の交換 該当なし
- カ 動産（船舶、浮標、浮棧橋、浮ドック、航空機） 該当なし
- キ 物権 該当なし
- ク 無体財産権（特許権、著作権、商標権、実用新案権等） 該当なし
- ケ 有価証券 該当なし
- コ 出資による権利 該当なし

(2) 金券類の受払状況

(平成22年1月31日現在)

種 別	前年度末	本 年 度 中		本年度末	備 考
		購 入 額	使 用 額		
郵便切手及び郵便はがき	円 51,240	円 47,500	円 40,770	円 57,970	
収入印紙	0	0	0	0	
収入証紙	0	0	0	0	
タクシークーポン券	0	0	0	0	
鉄道バスプリペイドカード	0	0	0	0	
合 計	51,240	47,500	40,770	57,970	

(3) 基金 該当なし

(4) 債 権

(平成22年1月31日現在)

債権の名称	前 年 度 末		本 年 度 中				本 年 度 末		備 考
	金 額	件 数	増		減		金 額	件 数	
			金 額	件 数	金 額	件 数			
行政財産使用料	円 34,500	1	円 0	0	円 34,500	1	円 0	0	
合 計	34,500	1	0	0	34,500	1	0	0	

20 財産の貸付け及び使用許可調べ
 (1) 土地及び建物
 ア 土地

行政・普通財産の区分	貸付(使用許可)目的	所在地	数量又は面積	貸付(使用許可)年月日	当初貸付(使用許可)年月日	貸付(使用許可)期間	貸付(使用)料(円)		貸付(使用許可)先		備考
							単価	本年度の貸付(使用)料	住氏名	所名	
行政財産	電力供給施設設置	鳥取市河原町稲常113	コンクリート柱3本 鋼管柱6本 支柱1本 支線13条	H17.3.24	H12.2.21	H17.4.1 ～ H22.3.31	月額・年額 34,500	34,500	鳥取市新品治町1-6 中国電力(株) 鳥取営業所		
	公共下水道設置	鳥取市河原町稲常113	38.49㎡	H17.4.1	H13.1.31	H17.4.1 ～ H22.3.31	月額・年額	免除	鳥取市尚徳町116 鳥取市		
計								34,500			
普通財産							月額・年額				
計								0			
合計								34,500			

イ 建物

(2) 物品 (1品の取得価格が100万円以上のもの) 該当なし

21 借受不動産明細調べ 該当なし

2.2 職員住宅及び職員駐車場の管理状況調べ

(1) 職員住宅 該当なし

(2) 職員駐車場

ア 管理状況

財産の区分	所在地	1区画の面積 (㎡)	貸付(使用)料(月額) (円)
行政財産	林業試験場(鳥取市河原町稲常113)	12.5	1,000
普通財産	-		

イ 異動状況

(行政財産)

月別	月初日	減		増		月末日		調定額	収入済額	収入未済額
		人	うち減免	人	うち減免	人	うち減免			
4月	23人	人		人		23人		23,000円		
5月	25			2		25		25,000		
6月	24	1				24		24,000		
7月	24					24		24,000		
8月	24					24		24,000		
9月	25			1		25		25,000		
10月	25					25		25,000		
11月	25					25		25,000		
12月	25					25		25,000		
1月	25					25		25,000		
2月										
3月										
合計								245,000円	245,000円	0円

2.3 自動車（二輪を除く）の管理状況調べ 該当なし

2.4 寄附物件の受納状況調べ 該当なし

2.5 備品の処分状況調べ

品名 (規格・銘柄)	数量	(保管換年月日) 取得年月日	耐用 年数	取得価格	不用 決定 年月日	不用 とする 理由	処 分				備考
							売却 棄却 の別	売却方法 棄却理由	処 分 年月日	売却額・ 処分費用	
刈払機(マキタE M341)	1	H4.5.22	5	円 59,740	H21.6.15	消耗劣化 による使用 不能	棄却	消耗・劣 化により 使用不能	H21.6.25	円 0	
刈払機(マキタE M341)	1	H5.4.20	5	円 60,926	H21.6.15	消耗劣化 による使用 不能	棄却	消耗・劣 化により 使用不能	H21.6.25	円 0	
刈払機(マキタE M341)	1	H6.5.20	5	円 60,926	H21.6.15	消耗劣化 による使用 不能	棄却	消耗・劣 化により 使用不能	H21.6.25	円 0	
エンジン刈払機	1	H11.5.21	5	円 55,650	H21.6.15	消耗劣化 による使用 不能	棄却	消耗・劣 化により 使用不能	H21.6.25	円 0	
エンジン刈払機	1	H11.5.21	5	円 55,650	H21.6.15	消耗劣化 による使用 不能	棄却	消耗・劣 化により 使用不能	H21.6.25	円 0	
エンジン刈払機	1	H11.5.21	5	円 55,650	H21.6.15	消耗劣化 による使用 不能	棄却	消耗・劣 化により 使用不能	H21.6.25	円 0	
エンジン刈払機	1	H11.5.21	5	円 55,650	H21.6.15	消耗劣化 による使用 不能	棄却	消耗・劣 化により 使用不能	H21.6.25	円 0	
ヤング係数測定 装置	1	H4.1.10	5	円 840,480	H21.6.17	老朽化で 修繕不能	棄却	老朽化が 進み使用 不能	H21.6.25	円 0	
木材水分計	1	H7.10.20	5	円 109,180	H21.6.17	老朽化で 修繕不能	棄却	老朽化が 進み使用 不能	H21.6.25	円 0	
合 計	5			円 1,353,852							

2.6 現金、有価証券、物品の亡失、損傷調べ 該当なし

2.7 貸付金等状況調べ 該当なし

28 事業別予算執行状況調べ

目 名		環境保全費		(平成22年1月31日現在)
事業名	予 算 令 達 額	支 出 済 額	左の事業内訳	
	円	円		
酸性雨調査事業	213,000	203,542	(事業概要) モニタリング調査により植生等の変化を調整し、 酸性雨等による森林への影響を監視する経費。	
計				

目 名		森林業害虫防除費		(平成22年1月31日現在)
事業名	予 算 令 達 額	支 出 済 額	左の事業内訳	
	円	円		
松くい虫等防除事業	2,239,000	297,827	(事業概要) カミキリ虫の発生予察、地域等の被害調査、抜倒 処理による被害防止効果等研究に要する経費。	
計				

目 名		農業総務費		(平成22年1月31日現在)
事業名	予 算 令 達 額	支 出 済 額	左の事業内訳	
	円	円		
農林水産部 管理運営費	20,000	20,000	(事業概要) 新規採用職員宿泊研修	
計				

目 名		中小企業振興費		(平成22年1月31日現在)
事業名	予 算 令 達 額	支 出 済 額	左の事業内訳	
	円	円		
打って出る鳥取の ものづくり支援事業 (バックアップ型ト ライアル発注制度)	850,500	850,500	(事業概要) ・省エネ熱反射シートAS工法、ハイブリッドエ コウインドウ(株式会社桑本総合設計) ・SUKASHI(株式会社サカモト)	
計				

目 名		造林費		(平成22年1月31日現在)
事業名	予 算 令 達 額	支 出 済 額	左の事業内訳	
	円	円		
とっとり環境の 森づくり事業	409,000	404,250	(事業概要) パーテックスコンパス購入に要する経費	
計				

29 農業機械の管理状況

(平成22年1月31日現在)

品名	型式及び規格	取得年月日	用途	稼働日数 日	燃料		修繕費等 円	左の主な内容 円	備考
					消費量 リットル	料金額 円			
トラクター	ヤマ-AF22XYS5E	H6. 6. 10	耕耘 ほか	5	10	1,020			
ダンブ式四輪運搬車	カシマAG1510DB	H1. 6. 5	運搬	27	21	2,604	104,760	ブレーキ修理 1,575円 タイヤ交換等 103,185円	
ダンブ式四輪運搬車	カシマAG1510BV	H8. 7. 29	運搬	77	59	7,434			
フォークリフト	トヨタ6FD30	H7. 10. 20	木材運搬	58	30	3,060	70,770	タイヤの修理 12,600円 タイヤの修理 8,190円 年次点検 49,980円	
計									

(注) (1) 自走式の農業機械について記載すること。
(2) その他の事項については、「19 自動車（二輪を除く）の管理状況」の注書きの例による。

30 生産物（品）に関する調べ

該当なし

3.1 試験研究調査事業別実施状況調べ

(平成22年1月31日現在)

事業名	表層崩壊発生に関する脆弱層の簡易な判別手法の開発		担当室別	森林管理研究室
実施計画期間	19年度 ～ 21年度		(予算額) 支出済額	(404,000) 258,553円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
表層崩壊の危険箇所の簡易な把握方法の開発(単)	三朝町、智頭町	34地点、1100回計測	市販の調査機器の構造を利用して、脆弱層調査用の安価な機器を開発する。	(成果) 4万円弱の調査機器(φ16mmタイプ)をつくり、市販品(16万円)とほぼ同等の性能であることを確認した。 (課題) 市販品よりも2kg軽量化したが、可能ならば軽量化を図った方がよい。
GISシステムによる色分け図の作成(単)	試験場内のパソコン作業	県内全域	危険箇所や作業道の適地を地形図に色分けして表示する。	(成果) 県内全域について、GIS色分け図を完成させた。この成果に対して知事表彰を受けた。 (課題) GISシステムそのものが町村や森林組合に普及していないので、成果の普及方法を行政と連携して検討する必要あり。

事業名	実用的なダイセンミツバツツジ繁殖技術の確立		担当室別	森林管理研究室
実施計画期間	19年度 ～ 21年度		(予算額) 支出済額	(303,000) 101,581円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
自生分布調査、種子の豊凶や発芽特性等を明らかにする。(単)	県内全域	自生地調査地21箇所、着果調査47本、	ダイセンミツバツツジの自生分布調査、種子の豊凶や発芽試験を行い、年次変動を明らかにする。	(成果) 県内自生地分布調査を行いGPSで記録保存するとともに、自生地の特徴・生育環境等を取りまとめた。開花結実は隔年結果傾向を示した。 (課題) 凶作年の種子はほとんど発芽しないので、保存方法についても検討が必要。
実用的な繁殖技術を確立する。(単)	鳥取市河原町(林試苗畑)	施肥試験300本	実生苗の成長に適した施肥方法を確立する。	(成果) 施肥試験の結果、ハイポネックス、IBワンスに比べてハイコントロール(10-10-10)施用が効果的であった。 (課題) 実生苗は成長が遅く、施肥の効果は認められるが規格に達する苗木が少ない。

事業名	高性能林業機械を活用した低コスト伐出 作業方法の確立		担当室別	森林管理研究室
実施計画期間	20年度 ～ 22年度		(予算額) 支出済額	(648,000) 293,158円
試験研究 調査の目的	試験研究調 査を行う場 所	試験研究 調査の 対象・数 量・範囲	本年度の試験研究 調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
木材生産能率の 向上を図るため 高性能林業機械 の作業性能を調 査し効率的な作 業方法を確立す る(単)	県内各地の 伐木搬出作 業地	集材作業3 箇所、造材 作業3箇所	造材作業の高性能林業機械の 生産性や効率的な使い方が分 かっていないので、調査し明 らかにする	(成果) 「6 主な事業に関する調べに記載」 (課題) 「6 主な事業に関する調べに記載」

事業名	作業道盛土の簡易な検査手法の開発		担当室別	森林管理研究室
実施計画期間	20年度 ～ 22年度		(予算額) 支出済額	(381,000) 298,151円
試験研究 調査の目的	試験研究調 査を行う場 所	試験研究 調査の 対象・数 量・範囲	本年度の試験研究 調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
既存の方法で作 業道の盛土を調 査する(単)	県内各地の 作業道	8路線, 74点	高規格道路用の施工管理方法 で作業道を検査し、作業道の 施工実態を把握する。	(成果) 土木施工管理基準における締め固め度の合 格値を超えたのは、道路中心では37地点中2 2地点で、路肩では37地点中7地点であった。 路肩で不合格の現場が多かった。 (課題) 高規格道路用の検査方法は高コストなので、作業 道には適さないと思われる。
安価な調査方法 を開発し、作業 道の盛土の合格 判定基準をつく る(単)	県内各地の 作業道	8路線, 238 点	災害が最も多い花崗岩のマサ 土の作業道現場に注目し、盛 土検査の実用的で簡易な判定 基準をつくる。	(成果) 花崗岩の現場では、3kgのおもりを50cmから落下 させて路面に25cm以上鉄棒(φ13mm)が貫入した ら、盛土の締め固め不良の可能性が高いことがわ かった。 (課題) 花崗岩以外の地質でもデータを取り、合否判定基 準を作る必要がある。

事業名	カシノナガキクイムシによるナラ類集団 枯損被害軽減法の開発		担当室別	森林管理研究室
実施計画期間	20年度 ～ 22年度		(予算額) 支出済額	(931,000) 536,338 円
試験研究 調査の目的	試験研究調 査を行う場 所	試験研究 調査の 対象・数 量・範囲	本年度の試験研究 調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
カシノナガキ クイムシの発 生時期を調査 し、効率的な虫 捕獲時期を決 定する(補助)	鳥取市河原 町	発生トラッ プ3ヶ所	林内被害木の照度別、標高別 の虫発生時期の検討	(成果)カシノナガキクイムシの発生は6月中旬 ～8月上旬に見られ、枯死に関与する脱出ピーク は2回程度見られた。 (課題)被害木への飛来は6月上旬から見られ、 早く脱出してくる成虫もいると見られる。どのよ うなところで早く脱出するのか調査する必要が ある。
簡便な被害軽 減法を開発す る。(補助)	鳥取市河原 町	接着剤散布 区、粘着ト ラップ区、 対照区1ヶ 所づつ	効果的な被害予防法の検討	(成果)粘着トラップ設置区で被害予防効果が見 られた。設置労力、費用も少なく、予防法として 有効な手法となる。 (課題)更なる実証試験を行い、予防法としての マニュアル化をはかる必要がある。

事業名	花粉の少ないスギ優良品種苗木生産技術 の確立		担当室別	森林管理研究室
実施計画期 間	20年度 ～ 23年度		(予算額) 支出済額	(502,000) 280,518 円
試験研究 調査の目的	試験研究調 査を行う場 所	試験研究 調査の 対象・数 量・範囲	本年度の試験研究 調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
効率的な苗木生 産技術の確立 (単)	鳥取市河原 町(林試苗畑)	少花粉品種 八頭5・8 ・11号を 挿し木(1, 800本)	挿し木の発根に最適な処理薬 剤と濃度を明らかにする。	(成果) 品種により発根促進剤の効果に違いがみられ、八 頭8号は4cl:10～50ppm、八頭11号はオキベロ:10 0～150ppmが効果的であった。 (課題) 全般に発根個体の根が貧弱。発根量の増加につい ても検討が必要。
交配実生苗木を 利用した挿し木 発根性向上試験 (単)	鳥取市河原 町(林試苗畑)	スギ少花粉 品種同士の 交配:母樹 (各3本、 計9本)	交配種子の採取と形質調査及 び発芽試験	(成果) 八頭5・8・11号の交配種子について、11月 採種を行った。現在、種子の形質調査及び発芽試 験を実施中。 (課題) 交配種子は通常に比べて小型で、発芽率が低いこ とが想定される。

事業名	ショウロ菌感染苗木生産技術の確立		担当室別	森林管理研究室
実施計画期間	21年度 ～ 23年度		(予算額)	(791,000)
			支出済額	555,145 円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
母樹感染法の確立(種菌投与の効果)(単)	鳥取市河原町(林試ガラス室)	ショウロ菌株2水準、種菌投与3水準、土壌2水準	育苗籠の閉鎖系土壌内で、ショウロ菌感染母樹から非感染稚苗へ安全・確実に拡大感染させ、ショウロ菌共生クロマツ苗木を生産する。	(成果) 「6 主な事業に関する調べに記載」 (課題) 「6 主な事業に関する調べに記載」
クロマツ品種とショウロ菌株との親和性(単)	鳥取市河原町(林試ガラス室)	クロマツ8品種、ショウロ2菌株	母樹感染法において、クロマツ品種とショウロ菌株との親和性の有無を明らかにする。	(成果) 「6 主な事業に関する調べに記載」 (課題) 「6 主な事業に関する調べに記載」

事業名	県産針葉樹資源による構造用単板積層材の品質安定化技術の確立		担当室別	木材利用研究室
実施計画期間	20年度 ～ 22年度		(予算額)	(498,000)
			支出済額	249,130 円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
県産スギ・B・C材を使用した構造用単板積層材(LVL)の品質を安定させる技術を確認する。(単)	林業試験場構内および株式会社オロチ工場内	県産スギ材	県産スギLVLについて複数のグレードの強度性能の製品を安定的に生産するための手法を開発する。	(成果) 「6 主な事業に関する調べ」に記載 (課題) 「6 主な事業に関する調べ」に記載

事業名	鳥取県産材の屋外利用における耐用年数に関する研究		担当室別	木材利用研究室
実施計画期間	20年度 ～ 21年度		(予算額) 支出済額	(450,000) 254,062 円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
鳥取県内に設置されている木製外構資材の耐朽性能を調査し、各種工法での木材の耐用年数を明らかにする。 (単)	林業試験場構内および県内	県内に施工されている木製外構資材	木製外構資材の調査サンプルを増やし、各種工法による劣化の状況を把握、それぞれの使用環境における部材の耐用年数について推定をおこなう。	(成果) 鳥取県内での海岸地域(海岸防風柵)、淡水域(治山堰堤)、陸上(道路転落防止柵)、山地(法面丸太伏工)などの劣化状況を目視・触診・機械によって調査し、設置環境や年数、防腐処理の有無などの違いによる劣化の状況、構造体としての耐久性を把握できた。屋外での木材使用に関する劣化の面からの基礎資料を得る事が出来た。 (課題) 県産材の屋外利用促進のため、行政や県内資材メーカーに対して、わかりやすい形で情報を提供していきたい。

事業名	県産さし木ヒノキ林の木材材質に関する研究		担当室別	木材利用研究室
実施計画期間	20年度 ～ 21年度		(予算額) 支出済額	(849,000) 236,947 円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
これまでほとんどデータのなかった、さし木により増殖されたヒノキの、木材としての材質を明らかにする。 (単)	林業試験場構内および智頭町内	智頭町内に植栽されたさし木ヒノキ	さし木ヒノキの材質(形、含水率、繊維長、強度など)を明らかにし、木材生産を目的としたさし木ヒノキの可能性について検証する。	(成果) 「6 主な事業に関する調べ」に記載 (課題) 「6 主な事業に関する調べ」に記載

事業名	県産スギ材を利用した市松状格子壁の技術開発		担当室別	木材利用研究室
実施計画期間	21年度 ～ 22年度		(予算額) 支出済額	(1,648,000) 141,051円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
県産スギ材を利用した耐震性・機能性に優れた市松状格子壁の構造を開発する。 (単)	林業試験場構内	県産スギ材およびこれを使った壁体	市松状格子壁の仕様を設定し面内せん断試験をおこなうことで、この仕様における壁の耐力を把握する。	(成果) 地元工務店の協力をいただき、板とダボを組み合わせた、現場に技術移転しやすい市松状格子壁を設計した。現在、材料を加工中。2月及び3月に公開にて実験をおこない、その性能について検証しつつ、県内関係者に県産材の良さをPRする予定にしている。 (課題) 現場に技術移転しやすい構造、加工形状、消費者から受け入れやすいデザインをさらに追及していく必要がある。

事業名	スギノアカネトラカミキリ被害材の強度性能把握		担当室別	木材利用研究室
実施計画期間	21年度 ～ 22年度		(予算額) 支出済額	(967,000) 125,955円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
スギノアカネトラカミキリ被害材の利用価値向上を図るため、被害程度と強度との関係を明らかにする。 (単)	林業試験場構内	県産スギ材	被害程度の特徴、分類をおこなう。強度試験を行い、被害程度との関係を把握する。	(成果) 県内製材工場から被害材を入手し、被害の程度について測定をおこなった。一つの被害で材全体に被害が及ぶことはなく、材の中でまばらに発生している。現在、これらの被害程度をまとめ強度試験を実施するべく準備をしている。 (課題) 住宅建築における実際の使用箇所を想定した、製品提案をおこなっていききたい。

専 業 名	新たな農林水産政策を推進する実用技術 開発事業（安全・安心な乾燥材生産技術の 開発）		担当室別	木材利用研究室
実施計画期間	21年度 ～ 23年度		(予算額) 支出済額	(2,040,000) 912,190 円
試 験 研 究 調 査 の 目 的	試験研究調 査を行う場 所	試験研究 調 査 の 対 象 ・ 数 量 ・ 範 囲	本年度の試験研究 調 査 等 の 目 標	試験研究調査の成果・課題
高温乾燥におけ る内部割れに対 し、発生状況を 非破壊で推定す る。 (補助)	林業試験場 構内および 広島県立林 業技術セン ター	県産スギ材	モデル試験によって、割れと ねじり強度、タッピング法に よるヤング係数との関係を把 握する。	(成果) スギ柱材の外側に、人為的に切れ込みを入れて 割れを再現、ねじり試験をおこなったところ、切 れ込みの程度によってねじり性能に違いが認め られた。また、タッピング法ともある程度の相関 関係が認められた。 (課題) タッピング法はその結果にばらつきが大きい 場合があった。再現性向上のための検討（叩き方 、材の設置の仕方など）が必要である。

○ 意見、要望等

- (1) 業務に関する意見・要望等 特になし
- (2) 監査委員事務局に対する要望等 特になし